

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	<b>音楽実技研究Ⅰ（声楽）</b>		常森寿子 他		必修	実技	4単位	前期
授 業 計 画								
音楽学科で習得した技術をもとに、各々の学生の適性にあった作品について技術と音楽的内容表現をさらに研究する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要を確認する	レッスンの復習	9	各自課題曲 3・4（仕上げ）	課題曲の練習	レッスンの復習
	2	各自課題曲 1・2 （発声法・ディクシオン）	課題曲の練習	レッスンの復習	10	各自課題曲 5・6 （発声法・ディクシオン）	課題曲の練習	レッスンの復習
	3	各自課題曲 1・2 （歌詞の理解・言葉と旋律）	課題曲の練習	レッスンの復習	11	各自課題曲 5・6 （歌詞の理解・言葉と旋律）	課題曲の練習	レッスンの復習
	4	各自課題曲 1・2 （歌唱表現の検討と工夫）	課題曲の練習	レッスンの復習	12	各自課題曲 5・6 （歌唱表現の検討と工夫）	課題曲の練習	レッスンの復習
到達目標								
各自の特性を活かすことのできる楽曲のレパートリーを増やし、歌唱技術・演奏表現をさらに深め、各自に応じた楽曲を表現豊かに演奏する。	5	各自課題曲 1・2（仕上げ）	課題曲の練習	レッスンの復習	13	各自課題曲 5・6（仕上げ）	課題曲の練習	レッスンの復習
	6	各自課題曲 3・4 （発声法・ディクシオン）	課題曲の練習	レッスンの復習	14	実技試験に向けて（作品考察）	課題曲の練習	レッスンの復習
	7	各自課題曲 3・4 （歌詞の理解・言葉と旋律）	課題曲の練習	レッスンの復習	15	実技試験に向けて （伴奏者と共に楽曲の表現を上げる）	課題曲の練習	レッスンの復習
	8	各自課題曲 3・4（歌唱表現の検討と工夫）	課題曲の練習	レッスンの復習				
教科書・テキスト等	評価方法		割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項	
個々に応じた楽曲を担当教員が指示する	実技試験		100%	正確な発音と音程、曲の表現 * 15分程度のプログラムを構成し演奏する			声楽コース必修	

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	<b>音楽実技研究Ⅱ（声楽）</b>		常森寿子 他		必修	実技	4単位	後期
授 業 計 画								
音楽学科で習得した技術をもとに、各々の学生の適性にあった作品について技術と音楽的内容表現をさらに研究する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要を確認する	レッスンの復習	9	各自課題曲 9・10（仕上げ）	課題曲の練習	レッスンの復習
	2	各自課題曲 7・8 （発声法・ディクシオン）	課題曲の練習	レッスンの復習	10	各自課題曲 11・12 （発声法・ディクシオン）	課題曲の練習	レッスンの復習
	3	各自課題曲 7・8 （歌詞の理解・言葉と旋律）	課題曲の練習	レッスンの復習	11	各自課題曲 11・12 （歌唱表現の検討と工夫）	課題曲の練習	レッスンの復習
	4	各自課題曲 7・8 （歌唱表現の検討と工夫）	課題曲の練習	レッスンの復習	12	各自課題曲 11・12 （歌詞の理解・言葉と旋律）	課題曲の練習	レッスンの復習
到達目標								
各自の特性を活かすことのできる楽曲のレパートリーを増やし、歌唱技術・演奏表現をさらに深め、各自に応じた楽曲を表現豊かに演奏する。	5	各自課題曲 7・8（仕上げ）	課題曲の練習	レッスンの復習	13	各自課題曲 11・12（仕上げ）	課題曲の練習	レッスンの復習
	6	各自課題曲 9・10 （発声法・ディクシオン）	課題曲の練習	レッスンの復習	14	実技試験に向けて（作品考察）	課題曲の練習	レッスンの復習
	7	各自課題曲 9・10 （歌詞の理解・言葉と旋律）	課題曲の練習	レッスンの復習	15	実技試験に向けて （伴奏者と共に楽曲の表現を上げる）	課題曲の練習	レッスンの復習
	8	各自課題曲 9・10 （歌唱表現の検討と工夫）	課題曲の練習	レッスンの復習				
教科書・テキスト等	評価方法		割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項	
個々に応じた楽曲を担当教員が指示する	実技試験		100%	正確な発音と音程、曲の表現 * 15分程度のプログラムを構成し演奏する			声楽コース必修	

対象学生	科目名	担当者	必修・選択	授業形態	単位数	開講時期		
音楽専攻科	<b>音楽実技研究Ⅰ（管弦打楽）</b>	馬込勇・柏尾剛徳 他	必修	実技	4単位	前期		
授業の概要								
専門性をさらに磨くべく、密度の濃い個人レッスンをうけることにより、自主性や自立心をも養い、目的をもって探求することを前提とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	ガイダンス（年間計画他）	シラバスを讀んでおくこと	授業後にその学習内容の復習	9	専攻実技研究⑧（ソロ曲の作曲者とその時代背景他）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習
	2	専攻実技研究①（ソロ曲の選曲等）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習	10	専攻実技研究⑨（曲の注意点他）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習
	3	専攻実技研究②（アナリーゼ他）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習	11	専攻実技研究⑩（曲想・流れ他）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習
	4	専攻実技研究③（音楽表現他）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習	12	専攻実技研究⑪（表現方法とその工夫）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習
到達目標								
よりレベルが高くなることにより、さらに練習曲やオーケストラスタディ、古典から近・現代にいたるまで、様々な曲を用いて、奏法上の技能・表現力を確実に身に付けることを目標とする	5	専攻実技研究④（テクニカルエチュード他）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習	13	専攻実技研究⑫（伴奏がある場合は、質を高めるためのレッスンとし、ない場合はソロだけのレッスン）	事前に伴奏合わせをしておく	反省を基に伴奏合わせをする
	6	専攻実技研究⑤（メロディアスエチュード他）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習	14	まとめ①（伴奏がある場合は、質を高めるためのレッスンとし、ない場合はソロだけのレッスン）	前のレッスンでの課題を修整する	反省を基に伴奏合わせをする
	7	専攻実技研究⑥（オーケストラスタディ①）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習	15	まとめ②（伴奏がある場合は、質を高めるためのレッスンとし、ない場合はソロだけのレッスン）	前のレッスンでの課題を修整し、更に音楽性自体も高める	反省を基に伴奏合わせをする
	8	専攻実技研究⑦（オーケストラスタディ②）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習	実技試験（学内演奏会）			
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント		履修に関する留意事項		
各担当者が適宜選定し、指定するものとする	前期実技試験（学内演奏会・公開）	100%	演奏内容（表現力・ピッチ・テンポ感等を含めた安定感他）		管弦打楽コース必修			

対象学生	科目名	担当者	必修・選択	授業形態	単位数	開講時期		
音楽専攻科	<b>音楽実技研究Ⅱ（管弦打楽）</b>	馬込勇・柏尾剛徳 他	必修	実技	4単位	後期		
授業の概要								
専門性をさらに磨くべく、密度の濃い個人レッスンをうけることにより、自主性や自立心をも養い、目的をもって探求することを前提とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	ガイダンス（後期実技試験について他）	シラバスを讀んでおくこと	授業後にその学習内容の復習	9	専攻実技研究⑧（ソロ曲の作曲者とその時代背景他）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習
	2	専攻実技研究①（ソロ曲の選曲等）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習	10	専攻実技研究⑨（曲の注意点他）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習
	3	専攻実技研究②（アナリーゼ他）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習	11	専攻実技研究⑩（曲想・流れ他）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習
	4	専攻実技研究③（音楽表現他）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習	12	専攻実技研究⑪（表現方法とその工夫）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習
到達目標								
よりレベルが高くなることにより、さらに練習曲やオーケストラスタディ、古典から近・現代にいたるまで、様々な曲を用いて、奏法上の技能・表現力を確実に身に付けることを目標とする	5	専攻実技研究④（テクニカルエチュード他）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習	13	専攻実技研究⑫（伴奏がある場合は、質を高めるためのレッスンとし、ない場合はソロだけのレッスン）	事前に伴奏合わせをしておく	反省を基に伴奏合わせをする
	6	専攻実技研究⑤（メロディアスエチュード他）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習	14	まとめ①（伴奏がある場合は、質を高めるためのレッスンとし、ない場合はソロだけのレッスン）	前のレッスンでの課題を修整する	反省を基に伴奏合わせをする
	7	専攻実技研究⑥（オーケストラスタディ①）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習	15	まとめ②（伴奏がある場合は、質を高めるためのレッスンとし、ない場合はソロだけのレッスン）	前のレッスンでの課題を修整し、更に音楽性自体も高める	反省を基に伴奏合わせをする
	8	専攻実技研究⑦（オーケストラスタディ②）	研究および練習をする	授業後にその学習内容の復習	実技試験（学内演奏会）			
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント		履修に関する留意事項		
各担当者が適宜選定し、指定するものとする	後期実技試験（修了試験・公開）	100%	演奏内容（表現力・ピッチ・テンポ感等を含めた安定感他）		管弦打楽コース必修			

対象学生	科目名		担当者	必修・選択	授業形態	単位数	開講時期	
音楽専攻科	<b>音楽演習研究Ⅰ(作曲)</b>		出田敬三 他	必修	演習	4単位	前期	
授業の概要								
授業計画								
作曲・編曲の全般に必要な知識と技術を習得し、幅広いジャンルの音楽をマスターし、専門性を追求する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	専攻科での研究テーマの決定。 オーケストレーション課題の選定	自作品の創作。研究テーマの絞り込み	研究テーマに沿った創作、編曲への取り組み	9	自作曲・自編曲研究③	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏	課題復習
到達目標	2	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション①	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	10	自作曲・自編曲研究④	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏	課題復習
演習課題	3	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション②	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	11	自作曲・自編曲研究⑤	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏	課題復習
1.和声学(和声実習)	4	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション③	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	12	自作曲・自編曲研究⑥	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏・楽譜制作	課題復習
2.対位法 パレストリーナスタイル、カノン、フーガまで								
3.管弦楽法 (管弦楽、吹奏楽)								
4.楽曲アナリーゼ バロック、古典、ロマンの楽曲を分析								
5.音楽形式	5	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション④	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	13	自作曲・自編曲研究⑦	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏・楽譜制作	課題復習
6.即興演奏法	6	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション⑤	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	14	自作曲・自編曲研究総括(実演)①	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏・楽譜制作	課題復習
7.コード進行法								
8.スコアリーディング	7	自作曲・自編曲研究①	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏	課題復習	15	自作曲・自編曲研究総括(実演)②	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏・提出作品の浄書	実技試験のための準備
9.編曲 クラシック、ポピュラーの楽曲をピアノ、室内楽に編曲し、演奏する								
10.作曲実習(自作曲の制作と試演)	8	自作曲・自編曲研究②	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏	課題復習	前期実技試験(学内演奏会・公開)			
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項	
各担当者が適宜選定し、指定するものとする。		前期実技試験(学内演奏会・公開)	100	創作物品(自作曲、自編曲)の質と、表現(演奏)の完成度。				

対象学生	科目名		担当者	必修・選択	授業形態	単位数	開講時期	
音楽専攻科	<b>音楽演習研究Ⅱ(作曲)</b>		出田敬三 他	必修	演習	4単位	後期	
授業の概要								
授業計画								
作曲・編曲の全般に必要な知識と技術を習得し、幅広いジャンルの音楽をマスターし、専門性を追求する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	卒業研究テーマの決定。 オーケストレーション課題の選定	自作品の創作。研究テーマの絞り込み	研究テーマに沿った創作、編曲への取り組み	9	自作曲・自編曲研究③	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏	課題復習
到達目標	2	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション①	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	10	自作曲・自編曲研究④	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏	課題復習
演習課題	3	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション②	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	11	自作曲・自編曲研究⑤	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏	課題復習
1.和声学(和声実習)	4	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション③	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	12	自作曲・自編曲研究⑥	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏・楽譜制作	課題復習
2.対位法 パレストリーナスタイル、カノン、フーガまで								
3.管弦楽法 (管弦楽、吹奏楽)								
4.楽曲アナリーゼ バロック、古典、ロマンの楽曲を分析								
5.音楽形式	5	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション④	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	13	自作曲・自編曲研究⑦	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏・楽譜制作	課題復習
6.即興演奏法	6	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション⑤	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	14	自作曲・自編曲研究総括(実演)①	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏・楽譜制作	課題復習
7.コード進行法								
8.スコアリーディング	7	自作曲・自編曲研究①	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏	課題復習	15	自作曲・自編曲研究総括(実演)②	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏・提出作品の浄書	実技試験のための準備
9.編曲 クラシック、ポピュラーの楽曲をピアノ、室内楽に編曲し、演奏する								
10.作曲実習(自作曲の制作と試演)	8	自作曲・自編曲研究②	自作品の創作(作曲・編曲)・演奏	課題復習	後期実技試験(学内演奏会・公開)			
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項	
各担当者が適宜選定し、指定するものとする。		後期実技試験(学内演奏会・公開)	100	創作物品(自作曲、自編曲)の質と、表現(演奏)の完成度。				

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期		
音楽専攻科	ピアノ実技Ⅰ		松崎伶子・川口みさき 他		選択	実技	2単位	前期		
授業の概要		授 業 計 画								
音楽学科で学んだ技術をもとに、幅広いピアノ音楽（伴奏・アンサンブル）にまで通用する演奏技術と音楽性を身に着ける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	研究楽曲を決める①	研究内容についての時代背景を考察する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	9	音楽的表現の追求① 音色を中心に考察する	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。	
	2	研究楽曲を決める②	研究内容についての様式を考察する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	10	音楽的表現の追求② 声部の色分けを中心に考察する	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。	
	3	読譜と分析①	形式を中心に考察する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	11	試験曲の完成度を高める① 課題曲の多様な演奏表現の検討	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。	
到達目標		4	読譜と分析②	和声を中心に考察する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	12	試験曲の完成度を高める② テンポの設定について	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。
ピアノ演奏をとおして多声音楽を学び、専門分野の音楽に役立たせる。専攻の如何を問わず、ピアノ演奏技術を習得する。	5	読譜と分析③	運指法を中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	13	試験曲の完成度を高める③ ペダリングを中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。	
	6	楽曲の構成①	強弱法を中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	14	演奏の心構え・準備 演奏表現の工夫と暗譜	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。	
	7	楽曲の構成②	奏法を中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	15	演奏の心構え・準備 総括	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。	
	8	楽曲の構成③	拍子感を中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	実技試験				
教科書・テキスト等	評価方法		割合(%)	評価のポイント				履修に関する留意事項		
各担当教員が推薦・指定する楽譜	成績評価基準		実技試験は複数の教員で採点し、成績を評価する	100%	課題曲の完成度					

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期		
音楽専攻科	ピアノ実技Ⅱ		松崎伶子・川口みさき 他		選択	実技	2単位	後期		
授業の概要		授 業 計 画								
音楽学科で学んだ技術をもとに、幅広いピアノ音楽（伴奏・アンサンブル）にまで通用する演奏技術と音楽性を身に着ける。修了に向けて、さらに高い技術と音楽性を身に着ける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	研究楽曲を決める①	研究内容についての時代背景を考察する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	9	音楽的表現の追求① 音色を中心に考察する	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。	
	2	研究楽曲を決める②	研究内容についての様式を考察する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	10	音楽的表現の追求② 声部の色分けを中心に考察する	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。	
	3	読譜と分析①	形式を中心に考察する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	11	試験曲の完成度を高める① 課題曲の多様な演奏表現の検討	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。	
到達目標		4	読譜と分析②	和声を中心に考察する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	12	試験曲の完成度を高める② テンポの設定について	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。
専攻の如何を問わず、ピアノ演奏技術を習得し、音楽関係の仕事に役立つ高度な知識を学ぶ。	5	読譜と分析③	運指法を中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	13	試験曲の完成度を高める③ ペダリングを中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。	
	6	楽曲の構成①	強弱法を中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	14	演奏の心構え・準備 演奏表現の工夫と暗譜	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。	
	7	楽曲の構成②	奏法を中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	15	演奏の心構え・準備 総括	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。	
	8	楽曲の構成③	拍子感を中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	実技試験				
教科書・テキスト等	評価方法		割合(%)	評価のポイント				履修に関する留意事項		
各担当教員が推薦・指定する楽譜	成績評価基準		実技試験は複数の教員で採点し、成績を評価する	100%	課題曲の完成度					

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	声楽実技Ⅰ		常森寿子 他		選択	実技	2単位	前期
授業の概要								
「歌うこと」は音楽のいかなる専門分野においても表現の基礎として重要である。各自の専門分野との繋がりも含めて、発声・呼吸法言葉の表現・内容の解釈・楽曲構成の理解を更に深める。  発声・発音・呼吸法の技術を確実に身につけ楽曲の内容をよく理解した歌唱表現ができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	レッスンの復習	9	各自課題曲2（楽曲構成・仕上げ）	課題曲の練習	レッスンの復習
	2	各自課題曲1（発声と呼吸法）	課題曲の練習	レッスンの復習	10	各自課題曲3（発声と呼吸法）	課題曲の練習	レッスンの復習
	3	各自課題曲1（声の響きと旋律）	課題曲の練習	レッスンの復習	11	各自課題曲3（声の響きと旋律）	課題曲の練習	レッスンの復習
	4	各自課題曲1（言葉と内容の解釈）	課題曲の練習	レッスンの復習	12	各自課題曲3（言葉と内容の解釈）	課題曲の練習	レッスンの復習
	5	各自課題曲1（楽曲構成・仕上げ）	課題曲の練習	レッスンの復習	13	各自課題曲3（楽曲構成・仕上げ）	課題曲の練習	レッスンの復習
	6	各自課題曲2（発声と呼吸法）	課題曲の練習	レッスンの復習	14	実技試験に向けたまとめ1 （作品理解と表現）	課題曲の練習	レッスンの復習
	7	各自課題曲2（声の響きと旋律）	課題曲の練習	レッスンの復習	15	実技試験に向けたまとめ2 （伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる）	課題曲の練習	レッスンの復習
8	各自課題曲2（言葉と内容の解釈）	課題曲の練習	レッスンの復習					
教科書・テキスト等	評価方法		割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項	
担当教員が指示する	実技試験		100%	正確な発音と音程、曲の表現 * 4分以内の楽曲を演奏する				

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	声楽実技Ⅱ		常森寿子 他		選択	実技	2単位	後期
授業の概要								
「歌うこと」は音楽のいかなる専門分野においても表現の基礎として重要である。各自の専門分野との繋がりも含めて、発声・呼吸法言葉の表現・内容の解釈・楽曲構成の理解を更に深める。  発声・発音・呼吸法の技術を確実に身につけ楽曲の内容をよく理解した歌唱表現ができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	レッスンの復習	9	各自課題曲5（楽曲構成・仕上げ）	課題曲の練習	レッスンの復習
	2	各自課題曲4（発声と呼吸法）	課題曲の練習	レッスンの復習	10	各自課題曲6（発声と呼吸法）	課題曲の練習	レッスンの復習
	3	各自課題曲4（声の響きと旋律）	課題曲の練習	レッスンの復習	11	各自課題曲6（声の響きと旋律）	課題曲の練習	レッスンの復習
	4	各自課題曲4（言葉と内容の解釈）	課題曲の練習	レッスンの復習	12	各自課題曲6（言葉と内容の解釈）	課題曲の練習	レッスンの復習
	5	各自課題曲4（楽曲構成・仕上げ）	課題曲の練習	レッスンの復習	13	各自課題曲6（楽曲構成・仕上げ）	課題曲の練習	レッスンの復習
	6	各自課題曲5（発声と呼吸法）	課題曲の練習	レッスンの復習	14	実技試験に向けたまとめ1 （作品理解と表現）	課題曲の練習	レッスンの復習
	7	各自課題曲5（声の響きと旋律）	課題曲の練習	レッスンの復習	15	実技試験に向けたまとめ2 （伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる）	課題曲の練習	レッスンの復習
8	各自課題曲5（言葉と内容の解釈）	課題曲の練習	レッスンの復習					
到達目標								
教科書・テキスト等	評価方法		割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項	
担当教員が指示する	実技試験		100%	正確な発音と音程、曲の表現 * 4分以内の楽曲を演奏する				

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	オペラ研究Ⅲ		常森寿子・桑原理恵		選択	演習	2単位	前期
授業の概要		授 業 計 画						
モーツァルトをはじめとするオペラから場面を取り出し、それぞれの声質に合った役のレチタティーヴォ、アリア、アンサンブルを研究する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	授業内容の説明 課題作品の時代背景・登場人物について	シラバスを読み 授業の概要を確認する	演習の復習	9	課題曲 5・6 (音楽的基礎部分の確認)	台詞読み 課題曲の歌唱	演習の復習
	2	課題曲 1・2 (歌詞の台詞読み・歌唱)	発音練習 台詞・譜読み	演習の復習	10	課題曲 5・6 (アンサンブルの確認)	課題曲の練習	演習の復習
	3	課題曲 1・2 (音楽的基礎部分の確認)	台詞読み 課題曲の歌唱	演習の復習	11	課題曲 1～6 (アンサンブルパートナーの決定)	課題曲の練習	演習の復習
	4	課題曲 1・2 (アンサンブルの確認)	課題曲の練習	演習の復習	12	課題曲 1～6 (役柄の特徴とアンサンブル)	パートナーとの 歌唱練習	演習の復習
到達目標								
オペラの楽譜の読み取り方(言葉・音楽・背景)を習得し、それに則した歌唱ができるようになる。 学習した題材は研究発表する。 *本学附属機関「熊本オペラ芸術協会」主催の演奏会での演奏も研究発表のひとつに含む。	5	課題曲 3・4 (歌詞の台詞読み・歌唱)	発音練習 台詞・譜読み	演習の復習	13	課題曲 1～6 (内容表現の考察)	パートナーとの 歌唱練習	演習の復習
	6	課題曲 3・4 (音楽的基礎部分の確認)	台詞読み 課題曲の歌唱	演習の復習	14	課題曲 1～6 (アンサンブルの仕上げ)	パートナーとの 歌唱練習	演習の復習
	7	課題曲 3・4 (アンサンブルの確認)	課題曲の練習	演習の復習	15	まとめ (演奏発表と講評)	パートナーとの 歌唱練習	演習の復習
	8	課題曲 5・6 (歌詞の台詞読み・歌唱)	発音練習 台詞・譜読み	演習の復習				
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項	
授業時に指示する		平常点(態度・行動観察)	50	オペラ作品の内容と歌唱の予習、授業への取り組み			オペラ研究Ⅱを合わせて履修すること	
		期末テスト	50	演技・アンサンブル・音楽的表現				

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	オペラ研究Ⅳ		常森寿子・桑原理恵		選択	演習	2単位	後期
授業の概要		授 業 計 画						
オペラ研究Ⅲで取り組んだ作品の役を演じるために必要な心理的動きに伴う所作を研究し演技力を身につける。また舞台上必要なマナー、コミュニケーションを学ぶ。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	授業内容の説明 課題作品の役柄・作品についての考察	課題曲の練習 役柄・作品について調べる	演習の復習	9	課題曲 1～6 (立ち稽古/歌詞からの演技考察)	共演者との練習	演習の復習
	2	課題曲 1～6 (音楽練習/歌唱による劇の表現)	課題曲の練習	演習の復習	10	課題曲 1～6 (立ち稽古/音楽からの演技考察)	共演者との練習	演習の復習
	3	課題曲 1～6 (音楽練習/譜面から動きを探る)	課題曲の練習	演習の復習	11	課題曲 1～6 (立ち稽古/歌詞と音楽と演技の関係)	共演者との練習	演習の復習
	4	課題曲 1～6 (音楽練習/動きを意識したアンサンブル)	共演者との練習	演習の復習	12	課題曲 1～6 (立ち稽古/相手とのコミュニケーションの取り方)	共演者との練習	演習の復習
到達目標								
オペラの楽譜の読み取り方(言葉・音楽・背景)を習得し、それに則した歌唱と演技ができるようになる。 学習した題材は研究発表する。 *本学附属機関「熊本オペラ芸術協会」主催の演奏会での演奏も研究発表のひとつに含む。	5	課題曲 1～6 (表現練習/役柄による動きの違い)	共演者との練習	演習の復習	13	課題曲 1～6 (立ち稽古/歌唱・演技での対話表現)	共演者との練習	演習の復習
	6	課題曲 1～6 (表現練習/台詞と動き)	共演者との練習	演習の復習	14	課題曲 1～6 (仕上げ)	共演者との練習	演習の復習
	7	課題曲 1～3 (舞台での基本的な動き・荒立ち稽古)	共演者との練習	演習の復習	15	まとめ (衣裳・道具をつけての舞台発表と講評)	共演者との練習	演習の復習
	8	課題曲 4～6 (舞台での基本的な動き・荒立ち稽古)	共演者との練習	演習の復習				
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項	
授業時に指示する		平常点(態度・行動観察)	50	オペラ作品の内容と歌唱の予習、授業への取り組み			オペラ研究Ⅱを合わせて履修すること	
		期末テスト	50	演技・アンサンブル・音楽的表現				

対象学生	科目名		担当者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	アンサンブル研究Ⅰ（管弦打楽）		馬込勇・柏尾剛徳 他		選択	演習	2単位	前期
授業の概要		授業計画						
様々な編成でのアンサンブルを経験することに加え、オーケストラスタディを研究することを基本とする。特にオーケストラスタディでは、著名な作曲家の作品に触れ、前期と後期で曲を変えながら、演奏会を想定した実践にさながらの内容とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	オリエンテーション(授業計画と教材曲の発表)	シラバスを確認	教材曲の研究と練習	9	表現方法②(アンサンブルを通しての表現方法②)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	2	基本的奏法①(その習得について①)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	10	表現方法③(アンサンブルを通してのジャンルの理解について)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	3	基本的奏法②(その習得について②)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	11	各パートの役割①(様々な楽器の奏法研究)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	4	基本的奏法③(その応用について)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	12	各パートの役割②(様々な楽器の音色研究)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
到達目標								
指揮者を通じてコミュニケーションやチームワークを大事にしながら、より深い音楽を目指す。更にこれらの経験を自主運営の演奏会等に活かせるように積極的な姿勢で臨むことを目標とする。	5	リズムと音程のトレーニング①(リズムについて)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	13	各パートの役割③(様々な楽器の表現方法の研究)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	6	リズムと音程のトレーニング②(音程トレーニングについて)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	14	まとめ①(演奏会を想定した教材曲の通し①)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	7	リズムと音程のトレーニング③(リズム・音程の発想の自由な転換について)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	15	まとめ②(演奏会を想定した教材曲の通し②)	教材曲の研究と練習	授業の復習および反省
	8	表現方法①(アンサンブルを通しての表現方法①)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習				
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項	
担当教員より指示	成績評価基準	平常点	30	授業態度・積極的姿勢等			管弦打楽コース推奨授業	
		課題演奏	70	学修課題を理解し、演奏に活かしているかどうか				

対象学生	科目名		担当者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	アンサンブル研究Ⅱ（管弦打楽）		馬込勇・柏尾剛徳 他		選択	演習	2単位	後期
授業の概要		授業計画						
様々な編成でのアンサンブルを経験することに加え、オーケストラスタディを研究することを基本とする。特にオーケストラスタディでは、著名な作曲家の作品に触れ、前期と後期で曲を変えながら、演奏会を想定した実践にさながらの内容とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	教材曲の概要(後期教材曲の発表とその音出し)	前期の内容の復習	教材曲の研究と練習	9	表現方法②(アンサンブルを通しての表現方法②)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	2	基本的奏法①(その習得について①)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	10	表現方法③(アンサンブルを通してのジャンルの理解について)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	3	基本的奏法②(その習得について②)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	11	各パートの役割①(様々な楽器の奏法研究)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	4	基本的奏法③(その応用について)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	12	各パートの役割②(様々な楽器の音色研究)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
到達目標								
指揮者を通じてコミュニケーションやチームワークを大事にしながら、より深い音楽を目指す。更にこれらの経験を自主運営の演奏会等に活かせるように積極的な姿勢で臨むことを目標とする。	5	リズムと音程のトレーニング①(リズムについて)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	13	各パートの役割③(様々な楽器の表現方法の研究)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	6	リズムと音程のトレーニング②(音程トレーニングについて)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	14	まとめ①(演奏会を想定した教材曲の通し①)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	7	リズムと音程のトレーニング③(リズム・音程の発想の自由な転換について)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	15	まとめ②(演奏会を想定した教材曲の通し②)	教材曲の研究と練習	授業の復習および反省
	8	表現方法①(アンサンブルを通しての表現方法①)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習				
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項	
担当教員より指示	成績評価基準	平常点	30	授業態度・積極的姿勢等			管弦打楽コース推奨授業	
		課題演奏	70	学修課題を理解し、演奏に活かしているかどうか				

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	合唱研究Ⅰ		菊村 隆史		選択必修	演習	2単位	前期
授業の概要		授 業 計 画						
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることを目指す。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	ガイダンス 授業計画発表・学修内容の説明・パート編成分け	シラバスを確認	計画を立てる	9	演習⑧ 楽曲演奏と研究①課題楽曲Aの実習、アーティキュレーションについて研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	2	演習① 合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習①呼気のコントロールと発声のメカニズムについて研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	演習⑨ 楽曲演奏と研究②課題楽曲Aの実習、発語（ディクッション）について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	3	演習② 合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習②安定感のあるブレスに立脚した声について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	演習⑩ 楽曲演奏と研究③課題楽曲Bの実習、アーティキュレーションについて研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	4	演習③ 合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習③様々なパッセージを歌唱し自らの声と音域について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	演習⑪ 楽曲演奏と研究④課題楽曲Bの実習、発語（ディクッション）について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
到達目標								
コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む。	5	演習④ アンサンブル・トレーニングの修得とその実習①移動ト唱法とソルミゼーションその1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	まとめ① グループ別研究発表と考察①	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	6	演習⑤ アンサンブル・トレーニングの修得とその実習②移動ト唱法とソルミゼーションその2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	まとめ② グループ別研究発表と考察②	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	7	演習⑥ アンサンブル・テクニックの修得とその応用①単旋律聖歌、オルガヌム等を用いて完全4度または完全5度の響きを味わい音程感覚を養う	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	まとめ③ 前期の総括	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	8	演習⑦ アンサンブル・テクニックの修得とその応用②カノン、オスティナート、2～3声の楽曲を用いて様々なコーラス・アンサンブルについて研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習				
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項	
必要に応じて配布、または個人購入して使用する。詳細は授業時に指示する。	成績評価基準	平常点（態度・行動観察） 課題 / レポート 課題演奏	20 30 50	授業態度、積極的な取り組みを評価する 合唱曲、アンサンブルについての考察 学修課題をふまえ、演奏に活かしているかどうかを評価する			「華麗なる音楽の祭典」において合唱で出演する為、必ず履修すること	

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	合唱研究Ⅱ		菊村 隆史 桑原 理恵・村橋 和子		選択必修	演習	2単位	後期
授業の概要		授 業 計 画						
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることを目指す。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	ガイダンス 作品演奏にふさわしい発声、発語に留意しながら和声的感覚を養うトレーニングに取り組む	前期の学修内容を復習	計画を立てる	9	演習⑧ 楽曲演奏と実習⑧組曲第8曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	2	演習① 楽曲演奏と実習①組曲第1曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	演習⑨ 楽曲演奏と実習⑨組曲第9曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	3	演習② 楽曲演奏と実習②組曲第2曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	演習⑩ 楽曲演奏と研究⑩全曲通し練習その1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	4	演習③ 楽曲演奏と実習③組曲第3曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	演習⑪ 楽曲演奏と研究⑪全曲通し練習その2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
到達目標								
コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む。	5	演習④ 楽曲演奏と実習④組曲第4曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	まとめ① リハーサル	既習事項のまとめと練習	課題に基づき復習・反復練習
	6	演習⑤ 楽曲演奏と実習⑤組曲第5曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	まとめ② 演奏会	既習事項のまとめと練習	課題に基づき復習・反復練習
	7	演習⑥ 楽曲演奏と実習⑥組曲第6曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	まとめ③ 反省と総括	既習事項のまとめと練習	合唱音楽について総括する
	8	演習⑦ 楽曲演奏と実習⑦組曲第7曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習				
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項	
必要に応じて配布、または個人購入して使用する。詳細は授業時に指示する。	成績評価基準	平常点（態度・行動観察） 課題 / レポート 演奏	20 30 50	授業態度、積極的な取り組みを評価する 合唱曲、アンサンブルについての考察 学修課題をふまえ、演奏に活かしているかどうかを評価する			「華麗なる音楽の祭典」において合唱で出演する為、必ず履修すること	



対象学生	科目名		担当者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期	
音楽専攻科	合奏研究Ⅰ		馬込勇・柏尾剛徳 他		選択	演習	2単位	前期	
授業の概要		授業計画							
アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修	
	1	オリエンテーション（授業計画等）	シラバスを確認	次の授業に備える	9	合奏（基本的奏法の修得とその応用）⑧（それぞれの役割について）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	
	2	合奏（基本的奏法の修得とその応用）①（教材となる曲の発表とその音出し）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	10	合奏（基本的奏法の修得とその応用）⑨（様々な楽器の奏法）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	
	3	合奏（基本的奏法の修得とその応用）②（教材曲の演奏と分析）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	11	合奏（基本的奏法の修得とその応用）⑩（音色の研究）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	
到達目標		4	合奏（基本的奏法の修得とその応用）③（リズム・音程のトレーニング）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	12	合奏（基本的奏法の修得とその応用）⑪（表現方法）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習
今まで学んだことの集大成として臨み、完成の高い演奏を目指す。	5	合奏（基本的奏法の修得とその応用）④（リズム・音程のトレーニングを基に発想を自由に転換）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	13	まとめ①（楽曲を通して確認①）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	
	6	合奏（基本的奏法の修得とその応用）⑤（独奏では経験できない音楽体験をする）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	14	まとめ②（楽曲を通して確認②）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	
	7	合奏（基本的奏法の修得とその応用）⑥（アンサンブルを通して曲の表現方法を学ぶ）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	15	まとめ③（楽曲を通して確認③）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	前期で学んだ ことの確認	
	8	合奏（基本的奏法の修得とその応用）⑦（合奏というジャンルを幅広く理解する）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習					
教科書・テキスト等	評価方法		割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項		
各担当者により指示	成績評価基準		平常点	30	授業態度・積極的姿勢等			管弦打楽コース推奨授業	
	課題演奏		70	学修課題を理解し、演奏に活かしているかどうか					

対象学生	科目名		担当者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期	
音楽専攻科	合奏研究Ⅱ		馬込勇・柏尾剛徳 他		選択	演習	2単位	後期	
授業の概要		授業計画							
アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修	
	1	前期の復習（前期に学んだことの復習および確認）	前期で学んだ ことを今一度 復習しておく	次の授業に備 える	9	合奏（基本的奏法の修得とその応用）⑧（それぞれの役割について）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	
	2	合奏（基本的奏法の修得とその応用）①（教材となる曲の発表とその音出し）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	10	合奏（基本的奏法の修得とその応用）⑨（様々な楽器の奏法）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	
	3	合奏（基本的奏法の修得とその応用）②（教材曲の演奏と分析）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	11	合奏（基本的奏法の修得とその応用）⑩（音色の研究）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	
到達目標		4	合奏（基本的奏法の修得とその応用）③（リズム・音程のトレーニング）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	12	合奏（基本的奏法の修得とその応用）⑪（表現方法）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習
全体を引っ張る存在として、妥協を許さないという姿勢を貫くことを目標とする。	5	合奏（基本的奏法の修得とその応用）④（リズム・音程のトレーニングを基に発想を自由に転換）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	13	まとめ①（楽曲を通して確認①）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	
	6	合奏（基本的奏法の修得とその応用）⑤（独奏では経験できない音楽体験をする）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	14	まとめ②（楽曲を通して確認②）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	
	7	合奏（基本的奏法の修得とその応用）⑥（アンサンブルを通して曲の表現方法を学ぶ）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習	15	まとめ③（楽曲を通して確認③）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	前期で学んだ ことの確認	
	8	合奏（基本的奏法の修得とその応用）⑦（合奏というジャンルを幅広く理解する）	教材となつて いる楽曲の研究 と練習	注意や指摘さ れたところの 反復練習					
教科書・テキスト等	評価方法		割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項		
各担当者により指示	成績評価基準		平常点	30	授業態度・積極的姿勢等			管弦打楽コース推奨授業	
	課題演奏		70	学修課題を理解し、演奏に活かしているかどうか					

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	伴奏法研究Ⅰ		川口 みさき		選択	演習	2単位	前期
授業の概要		授 業 計 画						
音楽学部で修得した技術をさらに発展させる。器楽曲、声楽曲におけるピアノ伴奏の方法や役割を学ぶ。各楽器の役割とアンサンブル方法を認識する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	オリエンテーション 伴奏の意義と授業計画	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	9	日本歌曲① 呼吸の合わせ方について	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。
	2	伴奏者の役割とは 伴奏者の映像を見たり、音楽を聴いてみる	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	10	日本歌曲② 音色を中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。
	3	モーツァルトの歌曲① 言葉と音楽について学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	11	日本歌曲③ フレーズ感について学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。
到達目標								
様々なジャンルの曲を経験することによって、様式感に合った、より高度な伴奏技術を身につける。	4	モーツァルトの歌曲② 様式・形式を学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	12	シューマンの歌曲① 表現者としてコミュニケーションの取り方	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。
	5	モーツァルトの歌曲③ 時代背景を中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	13	シューマンの歌曲② 楽曲にふさわしい音色の作り方	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。
	6	シューベルトの歌曲① 表現法について学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	14	共演者との実習 共演者との総合的なバランスの取り方について	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。
	7	シューベルトの歌曲② 音色を中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	15	まとめ 総括	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。
8	シューベルトの歌曲③ 相手を聴くことの意義と重要性	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める					
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント		履修に関する留意事項		
適宜、配布する	成績評価基準	平常点 (態度・行動観察)	30%	授業態度		事前に決定した曲を調べてくること		
		課題 / レポート	10%					
		期末テスト	50%	楽曲の完成度				
		毎時間の振り返り (学修のまとめ)	10%					

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	伴奏法研究Ⅱ		川口 みさき		選択	演習	2単位	後期
授業の概要		授 業 計 画						
器楽曲、声楽曲におけるピアノ伴奏の方法や役割を研究する。各楽器に対する役割とアンサンブルの方法を認識する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	器楽曲の伴奏 共演対象としての器楽と声楽の違いについて	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	9	オペラ作品とピアノ② 合図の出し方・呼吸の合わせ方	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。
	2	アンサンブルとしてのピアノ伴奏法 木管楽器とピアノの作品を選択する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	10	オペラ作品とピアノ③ 共演者とのコミュニケーションの取り方	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。
	3	木管楽器とピアノの作品① 様式・テンポなどを中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	11	オペラ作品とピアノ④ 様式・テンポなどを中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。
到達目標								
様々なジャンルの曲を経験することによって、様式感に合った、より高度な伴奏技術を身につける。伴奏法を学ぶことにより、自分自身の演奏をより広く表現力のあるものにしていく。	4	木管楽器とピアノの作品② 用語・記号などを中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	12	共演者との実習① 1つの音楽を作るための楽曲のすり合わせと、ピアノの役割	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。
	5	弦楽器とピアノの作品① 弦楽器とピアノの作品を選択する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	13	共演者との実習② 音の強さのバランスを学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。
	6	弦楽器とピアノの作品② 様式・テンポなどを中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	14	共演者との実習③ 楽曲にふさわしい表現法を学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。
	7	弦楽器とピアノの作品③ 音色を中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	15	まとめ 総括	指示された内容まで到達するよう練習する	指導された事柄について練習を深める。
8	オペラ作品とピアノ① 声楽曲の伴奏における留意事項について	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める					
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント		履修に関する留意事項		
適宜、配布する	成績評価基準	平常点 (態度・行動観察)	30%	授業態度		事前に決定した曲を調べてくること		
		課題 / レポート	10%					
		期末テスト	50%	楽曲の完成度				
		毎時間の振り返り (学修のまとめ)	10%					

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	音楽史特殊講義Ⅰ		木村 博子		選択	講義	2単位	前期
授業の概要	授 業 計 画							
バロック～古典派時代の作品分析を通して、時代様式の理解とその現代的応用を学ぶ。授業の前半は作品分析についての講義、後半は演習形式で、楽曲分析および学生による作品研究の発表とディスカッションにより進めていく。音楽史の様々なジャンルにおける作品の理解を深めるとともに、効果的なプレゼンテーションやディスカッションの方法についても学んでいく。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	音楽作品の分析と理解について～音楽作品の成り立ちを形式と様式の両面から明らかにする方法について概説する。	シラバスを熟読する。	授業内容を復習する。	9	学生の発表とディスカッション①～学生が選択した曲について発表し、皆で討論する。	学生が選択した曲を視聴する。	課題曲と同じ様式の作品を分析してみる。
	2	形式分析的な理解について～和声分析による楽曲構成法を学ぶ。	バッハの『小フーガ短調』を聴く。	モーツァルトの『ピアノソナタK.545』を分析する。	10	学生の発表とディスカッション②～学生が選択した曲について発表し、皆で討論する。	学生が選択した曲を視聴する。	課題曲と同じ様式の作品を分析してみる。
	3	時代様式的理解について～バロックの組曲と古典派のソナタ形式について学ぶ。	バッハの『パルティータ1番』を聴く。	ベートーヴェンの『ピアノソナタop.49』を分析する。	11	学生の発表とディスカッション③～学生が選択した曲について発表し、皆で討論する。	学生が選択した曲を視聴する。	課題曲と同じ様式の作品を分析してみる。
	4	作品分析①～バッハ『平均律クラヴィア曲集第1巻第1番フーガ』を分析する。	課題曲を聴く。	授業の内容を復習し、どう演奏に応用するか考える。	12	学生の発表とディスカッション④～学生が選択した曲について発表し、皆で討論する。	学生が選択した曲を視聴する。	課題曲と同じ様式の作品を分析してみる。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な種類の音楽作品を分析する力をつけ、それを自らの演奏や創作に生かすことができるようになる。</li> <li>効果的なプレゼンテーションの方法を身につける。</li> </ul>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な種類の音楽作品を分析する力をつけ、それを自らの演奏や創作に生かすことができるようになる。</li> <li>効果的なプレゼンテーションの方法を身につける。</li> </ul>	5	作品分析②～ヘンデル『水上の音楽』を分析する。	課題曲を聴く。	授業の内容を復習し、どう演奏に応用するか考える。	13	学生の発表とディスカッション⑤～学生が選択した曲について発表し、皆で討論する。	学生が選択した曲を視聴する。	課題曲と同じ様式の作品を分析してみる。
	6	作品分析③～モーツァルト『ピアノ協奏曲第20番』第1楽章を分析する。	課題曲を聴く。	授業の内容を復習し、どう演奏に応用するか考える。	14	学生の発表とディスカッション⑥～学生が選択した曲について発表し、皆で討論する。	学生が選択した曲を視聴する。	課題曲と同じ様式の作品を分析してみる。
	7	作品分析④～モーツァルトの歌曲『すみれ』『春への憧れ』を分析する。	課題曲を聴く。歌詞の意味を調べる。	授業の内容を復習し、どう演奏に応用するか考える。	15	まとめ～取り上げた作品の形式と様式についてまとめる。	授業の内容を振り返る。	レポートをまとめる。
	8	作品分析⑤～ベートーヴェン『フィデリオ』を分析する。	課題曲を視聴し、オペラの筋を予習しておく。	授業の内容を復習し、どう演奏に応用するか考える。				
	教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント		履修に関する留意事項	
プリント配布		平常点 (態度・行動観察)	50%	積極的にディスカッションに参加しているか、効果的でわかりやすい発表ができたか				
		課題 / レポート	50%	内容が吟味されているか、それをうまく表現できているか				

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	音楽史特殊講義Ⅱ		木村 博子		選択	講義	2単位	後期
授業の概要	授 業 計 画							
19世紀以降の作品解釈を通して、時代様式の理解とその現代的応用を学ぶ。授業の前半は作品分析についての講義、後半は演習形式で、楽曲分析および学生による作品研究の発表とディスカッションにより進めていく。音楽史の様々なジャンルにおける作品の理解を深めるとともに、効果的なプレゼンテーションやディスカッションの方法についても学んでいく。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	ロマン派の特徴について概説する。ロマン派音楽の各ジャンルについて学ぶ。	シラバスを熟読する。	授業内容を復習する。	9	学生の発表とディスカッション①～学生が選択した曲について発表し、皆で討論する。	学生が選択した曲を視聴する。	課題曲と同じ様式の作品を分析してみる。
	2	ロマン派のオペラとリートの様式について学ぶ。	シューベルトの歌曲、ヴェルディのオペラを視聴する。	作曲家の別の作品について分析してみる。	10	学生の発表とディスカッション②～学生が選択した曲について発表し、皆で討論する。	学生が選択した曲を視聴する。	課題曲と同じ様式の作品を分析してみる。
	3	ロマン派の器楽作品について、ピアノ音楽の様式と管楽器のアンサンブルについて学ぶ。	リスト、ショパンのピアノ曲、管楽器のアンサンブルの曲を聴く。	授業で取り上げた曲以外の曲を分析してみる。	11	学生の発表とディスカッション③～学生が選択した曲について発表し、皆で討論する。	学生が選択した曲を視聴する。	課題曲と同じ様式の作品を分析してみる。
	4	作品分析①～シューベルト『美しき水車小屋の娘』を分析する。	課題曲を聴く。歌詞の意味を調べる。	授業の内容を復習し、どう演奏に応用するか考える。	12	学生の発表とディスカッション④～学生が選択した曲について発表し、皆で討論する。	学生が選択した曲を視聴する。	課題曲と同じ様式の作品を分析してみる。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な種類の音楽作品を分析する力をつけ、それを自らの演奏や創作に生かすことができるようになる。</li> <li>効果的なプレゼンテーションの方法を身につける。</li> </ul>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な種類の音楽作品を分析する力をつけ、それを自らの演奏や創作に生かすことができるようになる。</li> <li>効果的なプレゼンテーションの方法を身につける。</li> </ul>	5	作品分析②～ショパン『英雄ポロネーズ』を分析する。	課題曲を聴く。	授業の内容を復習し、どう演奏に応用するか考える。	13	学生の発表とディスカッション⑤～学生が選択した曲について発表し、皆で討論する。	学生が選択した曲を視聴する。	課題曲と同じ様式の作品を分析してみる。
	6	作品分析③～ヴェルディ『椿姫』を分析する。	課題曲を聴く。あらすじを調べる。	授業の内容を復習し、どう演奏に応用するか考える。	14	学生の発表とディスカッション⑥～学生が選択した曲について発表し、皆で討論する。	学生が選択した曲を視聴する。	課題曲と同じ様式の作品を分析してみる。
	7	作品分析④～チャイコフスキー『胡桃割り人形』を分析する。	課題曲を聴く。	授業の内容を復習し、どう演奏に応用するか考える。	15	まとめ～取り上げた作品の形式と様式についてまとめる。	授業の内容を振り返る。	レポートをまとめる。
	8	作品分析⑤～ミュージカル『ウェスト・サイド・ストーリー』を分析する。	課題曲を視聴し、ミュージカルのあらすじを予習しておく。	他のミュージカルを分析してみる。				
	教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント		履修に関する留意事項	
プリント配布		平常点 (態度・行動観察)	50%	積極的にディスカッションに参加しているか、効果的でわかりやすい発表ができたか				
		課題 / レポート	50%	内容が吟味されているか、それをうまく表現できているか				

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	<b>歌曲研究Ⅲ（ドイツ歌曲）</b>		桑原 理恵		選択	演習	2単位	前期
授業の概要								
ドイツ歌曲における唱法を発音・詩の持つ意味がどのように絡みあっているか、また伴奏と歌とのアンサンブルにも重点をおきながら表現法を探っていく。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	授業内容の説明およびドイツ歌曲の歴史	シラバスを読み授業の概要を確認する	演習の復習	9	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題1 (発音練習・歌唱法)	発音練習 課題曲の歌唱	演習の復習
	2	ドイツ語の発音と詩について	発音練習	演習の復習	10	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題1 (詩の朗読と内容研究)	詩の朗読 作品についての予習	演習の復習
	3	古典派作曲家のドイツ歌曲課題1 (発音練習・歌唱法)	発音練習 課題曲の歌唱	演習の復習	11	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題1 (仕上げ)	課題曲の歌唱	演習の復習
	4	古典派作曲家のドイツ歌曲課題1 (詩の朗読と内容研究)	詩の朗読 作品についての予習	演習の復習	12	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題2 (発音練習・歌唱法)	発音練習 課題曲の歌唱	演習の復習
到達目標								
ドイツ語の発音とリズムを習得し、詩の内容を理解した上で流暢に詩を朗読することができる。言葉（語感）を活かし詩の内容を歌唱表現することができる。伴奏の役割を楽譜からよみとることができる。	5	古典派作曲家のドイツ歌曲課題1（仕上げ）	課題曲の歌唱	演習の復習	13	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題2 (詩の朗読と内容研究)	詩の朗読 作品についての予習	演習の復習
	6	古典派作曲家のドイツ歌曲課題2 (発音練習・歌唱法)	発音練習 課題曲の歌唱	演習の復習	14	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題2 (仕上げ)	課題曲の歌唱	演習の復習
	7	古典派作曲家のドイツ歌曲課題2 (詩の朗読と内容研究)	詩の朗読 作品についての予習	演習の復習	15	古典派・ロマン派の課題曲から各1曲演奏 演奏曲の考察発表	演奏曲の歌唱と 考察	演習の復習
	8	古典派作曲家のドイツ歌曲課題1（仕上げ）	課題曲の歌唱	演習の復習				
教科書・テキスト等								
授業時に指示する	成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		履修に関する留意事項	
		平常点（態度・行動観察）		50	歌詞の読み・詩の内容の予習、授業への取り組み			
		期末テスト		50	ドイツ語の発音・演奏表現の追求と内容考察			

対象学生	科 目 名		担 当 者		修了必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	<b>歌曲研究Ⅳ（日本歌曲）</b>		白川 深雪		選択	演習	2単位	後期
授業の概要								
日本歌曲における唱法を詩の持つ意味と発音が旋律とどう絡み合っているか、また伴奏と歌とのアンサンブルに重点をおきながら表現法を探っていく。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	ガイダンス (授業内容の説明及び日本歌曲の歴史)	シラバスを読み、授業の概要を確認する	演習の復習	9	日本歌曲課題3 (発音練習、課題曲の歌唱)	課題曲の練習 と作品についての予習	演習の復習
	2	日本語の発音と詩について (日本語の発音及び詩の内容を読みとる方法について)	詩の朗読	演習の復習	10	日本歌曲課題3 (詩の朗読と内容研究、課題曲の歌唱)	課題曲の練習	演習の復習
	3	日本歌曲課題1 (日本語の語感を捉えた詩の朗読、課題曲の歌唱)	日本語の発音練習・課題曲の練習	演習の復習	11	日本歌曲課題3 (詩の朗読と課題曲の歌唱（仕上げ）)	課題曲の練習	演習の復習
	4	日本歌曲課題1 (詩の朗読と内容研究、課題曲の歌唱)	課題曲の練習と作品についての予習	演習の復習	12	日本歌曲課題4 (発音練習、課題曲の歌唱)	課題曲の練習 と作品についての予習	演習の復習
到達目標								
日本語の語感をもって表現豊かに詩を朗読できる。日本語の語感を活かし、内容を表現した歌唱ができる。	5	日本歌曲課題1 (詩の朗読と課題曲の歌唱（仕上げ）)	課題曲の練習	演習の復習	13	日本歌曲課題4 (詩の朗読と内容研究、課題曲の歌唱)	課題曲の練習	演習の復習
	6	日本歌曲課題2 (発音練習、課題曲の歌唱)	課題曲の練習と作品についての予習	演習の復習	14	日本歌曲課題4 (詩の朗読と課題曲の歌唱（仕上げ）)	課題曲の練習	演習の復習
	7	日本歌曲課題2 (詩の朗読と内容研究、課題曲の歌唱)	課題曲の練習	演習の復習	15	まとめ (日本歌曲課題1曲演奏／演奏曲の考察発表)	課題曲の練習	演習の復習
	8	日本歌曲課題2 (詩の朗読と課題曲の歌唱（仕上げ）)	課題曲の練習	演習の復習				
教科書・テキスト等								
授業時に指示する	成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		履修に関する留意事項	
		平常点（態度・行動観察）		50	歌詞、詩の内容の予習・聴講時の取り組み			
		実技テスト		50	日本語の発音・演奏表現の追求と内容考察			

対象学生	開設科目名	担当者	担当形態	必修・選択	単位数	開講時期		
音楽専攻科	<b>教育課題研究Ⅰ</b>	岩山恵美子・松崎伶子	複数	教員免許状取得のための必修科目	2単位	前期		
科目	大学が独自に設定する科目							
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育実践に関する科目							
授業のテーマ及び到達目標	授業計画							
	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
様々なジャンルの音楽の特徴や当面する教育上の課題について理解を深めよう	1	ガイダンスとテーマ設定 (松崎伶子・岩山恵美子)	シラバスを読んでおく	テーマに沿った課題を自分なりに選ぶ	9	交響曲 (松崎伶子)	交響曲の構成についてまとめておく	「今日の学び」をまとめる
	2	課題追求とまとめ方 (岩山恵美子)	課題追求の計画を立てておく	計画を修正する	10	バレエ音楽 (松崎伶子)	バレエ音楽の特徴についてまとめておく	「今日の学び」をまとめる
	3	日本人と外国人 言語・楽器・リズム感の違い (松崎伶子)	課題について調べておく	「今日の学び」をまとめる	11	学生が選択した音楽についての鑑賞及び研究発表と討議 A班課題 (松崎伶子)	選択した楽曲を分析しておく	「今日の学び」をまとめる
	4	世界の音楽 (アジア・アフリカの音楽) (岩山恵美子)	該当する中学校教材(楽曲)について調べておく	アジア・アフリカの音楽の特徴をまとめる	12	学生が選択した音楽についての鑑賞及び研究発表と討議 B班課題 (松崎伶子)	選択した楽曲を分析しておく	「今日の学び」をまとめる
授業の概要	5	世界の音楽(南米の音楽) (岩山恵美子)	該当する中学校教材(楽曲)について調べておく	南米の音楽の特徴をまとめる	13	2030年問題を考える (岩山恵美子)	論点整理のp1～p7を読んでおく	社会の変化と教育課題についてまとめる
中学校、高等学校の教材曲について音楽的特徴だけでなく、時代背景や地域性などの面からも調べ、理解を深める。	6	音響が人間に与える影響 (松崎伶子)	課題について調べておく	「今日の学び」をまとめる	14	学生が設定した課題についての発表と討議【情報化】 (岩山恵美子)	情報化と教育課題について調べ発表準備をしておく	情報化の進展の功罪についてまとめる
	7	音楽が水に与える影響 (松崎伶子)	課題について調べておく	「今日の学び」をまとめる	15	学生が設定した課題についての発表と討議【ICT活用】 (岩山恵美子)	ICTの具体的な活用策を考えておく	情報化に対応できる教師の力量についてまとめる
これからの教育のあり方について、情報化の進展の視点から考え、教師としての有り様を自分なりに考える	8	ソナタ形式と小論文 (松崎伶子)	ソナタ或いはソナチネの小品をアナリーゼしておく	「今日の学び」をまとめる				
教科書・テキスト等				成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント	
参考書・参考資料等	学生が作成した発表資料			小論文	50	課題についての内容充実、論旨の一貫性、自分の考え		
	適宜、資料を配付			平常点(課題検討への取り組み、気づき、意見)	50	課題についての理解度、自分なりの考え 事前事後学修の内容や意見の深まり・積極的参加		

対象学生	開設科目名	担当者	担当形態	必修・選択	単位数	開講時期		
音楽専攻科	<b>教育課題研究Ⅱ</b>	岩山恵美子・松崎伶子	複数	教員免許状取得のための必修科目	2単位	後期		
科目	大学が独自に設定する科目							
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育実践に関する科目							
授業のテーマ及び到達目標	授業計画							
	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
「楽曲分析力を高めたり、教育課題への理解を深めよう」	1	研究テーマの設定 (松崎伶子・岩山恵美子)	シラバスを読んでおく	選択したテーマの研究計画を作成する	9	教育課題について (岩山恵美子)	様々な情報から教育に関する課題を探し、まとめておく	追求したい課題を選び、計画を立てる
	2	バッハの時代 (松崎伶子)	バッハの生きた時代背景や他の文化について調べておく	「今日の学び」をまとめる	10	家庭教育について (岩山恵美子)	家庭教育について調べておく	「今日の学び」をまとめる
	3	バッハの技法 (松崎伶子)	インヴェンションをアナリーゼしておく	「今日の学び」をまとめる	11	学生が選択した教育課題についての研究発表とディスカッション 【心の健康】 (岩山恵美子)	【心の健康】について調べ発表準備をしておく	具体的な取り組み策を考えまとめる
	4	古典派の作品、発表と意見交換 (松崎伶子)	古典派の小品をアナリーゼしておく	「今日の学び」をまとめる	12	学生が選択した教育課題についての研究発表とディスカッション 【危機管理】 (岩山恵美子)	【危機管理】について調べ発表準備をしておく	具体的な取り組み策を考えまとめる
授業の概要	5	ロマン派の作品、発表と意見交換 (松崎伶子)	ロマン派の小品をアナリーゼしておく	「今日の学び」をまとめる	13	学生が選択した教育課題についての研究発表とディスカッション 【地域連携】 (岩山恵美子)	【地域連携】について調べ発表準備をしておく	具体的な取り組み策を考えまとめる
各時代の代表的作品をアナリーゼしたことや自らが設定した教育課題について調査研究した事を発表・意見交換することを通して、分析力を高め、課題についての理解を深める	6	近現代の作品、発表と意見交換 (松崎伶子)	近現代の小品をアナリーゼしておく	「今日の学び」をまとめる	14	学生が選択した教育課題についての研究発表とディスカッション 【指導力向上】 (岩山恵美子)	【指導力向上】について調べ発表準備をしておく	具体的な取り組み策を考えまとめる
	7	ジプシー音楽、発表と意見交換 (松崎伶子)	ジプシー音楽について調べておく	「今日の学び」をまとめる	15	私の教育ヴィジョン (岩山恵美子)	自分の教育ヴィジョンの発表準備をしておく	「今日の学び」をまとめる
音楽史上の各時代の代表的な作品を分析することを通して、音楽を深く捉え、指導に活かす方策を探る。	8	音楽と脳 (松崎伶子)	課題について調べておく	「今日の学び」をまとめる				
教科書・テキスト等				成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント	
参考書・参考資料等	学生が作成した発表資料			小論文	50	課題についての内容充実、論旨の一貫性、自分の考え		
	適宜、資料を配付			平常点(課題検討への取り組み、気づき、意見)	50	課題についての理解度、自分なりの考え 事前事後学修の内容や意見の深まり・積極的参加		

対象学生	授 業 科 目 名	担 当 者	必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	<b>修了研究（声楽）</b>	常森寿子 他	必修	演習・実技	8単位	通年
授業の概要	授 業 計 画					
音楽実技研究（声楽）で取り組む楽曲に関する研究を行う。自分が演奏する作品の歴史、作曲家、作詞者、演奏技術などの研究を行う。また、様々なジャンルの芸術に触れ豊かな感性を育てる。	<p>○ 音楽実技研究（声楽）で取り組む楽曲について次の項目を研究し、演奏レポートにまとめる。</p> <p>①作曲家について    ②作品成立の時代背景    ③楽曲様式    ④ディクショ    ⑤演奏技術の研究</p> <p>[内 容] 修了試験曲に関する作曲家・作品成立の歴史・時代様式・歌詞・内容・演奏技術等について。</p> <p>[形 式] 形式は自由。1ページを1200字とした場合、3～10ページを目安とする。</p> <p>[提出期限] 平成31年 2月 1日（金）17時30分</p> <p>[提出窓口] 教務課窓口 *必ず本人が提出すること。</p>					
到達目標	<p>楽曲を様々な角度から捉え理解を深め、演奏表現の向上に結びつける。また、自分が習得した技術や表現について文字や言葉で伝えることを学ぶ。</p>					
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント	履修に関する留意事項	
指導教員と相談の上、任意に選曲		卒業試験の演奏曲についての演奏レポート	30	作品研究内容の深さと充実、論旨の一貫性、わかりやすい記述		
		口頭試問	30	演奏レポート及び卒業試験の演奏についての質問に答える		
		特別講座への取り組み	10	主体性、積極性、追求性		
		実技試験	30	演奏内容		

対象学生	科 目 名	担 当 者	必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	<b>修了研究（管弦打楽）</b>	馬込勇・柏尾剛徳 他	必修	演習・実技	8単位	通年
授業の概要	授 業 計 画					
自らが選んだ楽曲に対し、作曲家自身の作品成立史・時代様式・技法等の研究を前提とする。専攻科として1年間を通して習得した技能・知識を駆使し、一演奏家として舞台において発表することを意味する。学内演奏会・修了試験が課される。	内 容					
到達目標	<p>1. 前期は学内演奏会、後期は修了試験として公開試験となるので、それぞれに向けた選曲および、楽曲研究をする</p> <p>2. 専攻楽器のレパートリーの研究をする</p> <p>※3. 普段の実技とは違った角度でアナリゼを中心とし、楽曲の時代背景や作曲された経緯その他を研究する</p> <p>4. その他、管弦打楽器の知識を深め、将来学校現場等で吹奏楽や管弦楽を指導することも想定し、様々な角度から研究を行う</p> <p>※3. のレポートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●形式：自由形式</li> <li>●サイズ：A4</li> <li>●文字数：1ページ1200字程度</li> <li>●枚数：3枚以上10枚以内</li> <li>●提出窓口：教務課</li> <li>●提出期限：別途定める</li> </ul>					
音楽表現を学ぶ者にとって、個々の楽器演奏の習得のみでは不完全な表現となってしまう。それを補うためにもオペラ・ミュージカル・映画等、多方面の芸術を実際に見聞することにより、深い芸術性を養うことを一つの目標とする。						
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント	履修に関する留意事項	
担当教員から指示		学内演奏会(前期)	40	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等を含めた安定感他)	管弦打楽コース必修	
		課題/レポート(後期)	10	上記3. についてのレポートを提出		
		口頭試問(後期)	10	選曲した動機(研究動機)・主体的に取り組んできた内容等		
		卒業試験(後期)	40	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等を含めた安定感他)		

対象学生	科目名	担当者	必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽専攻科	<b>修了研究(作曲)</b>	出田 敬三	必修	演習・実技	8単位	通年
授業の概要	授 業 計 画					
声楽曲（合唱曲を含む）、器楽曲（独奏、室内楽、オーケストラ等）の様々なジャンルの編成や楽器等とスタイルにより、これまでに習得した様々な作曲技法やイメージを生かし、独創的で個性ある芸術作品を創作する。また、それを実際に音を出して再現する。	学修内容					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●以下の10のテーマを通年にわたって研究する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 和声学</li> <li>② 対位法</li> <li>③ 管弦楽法</li> <li>④ 楽曲アナリゼ</li> <li>⑤ コード進行法</li> <li>⑥ 音楽形式</li> <li>⑦ 編曲</li> <li>⑧ スコアリーディング</li> <li>⑨ 鑑賞</li> <li>⑩ 即興演奏</li> </ul> </li> <li>●作曲実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>前期公開試験、後期修了試験のための自作曲の創作を主な学修内容とする。</li> <li>各試験時には、楽譜を提出することを必須とする。</li> </ul> </li> </ul>					
到達目標	音楽学科において研究した創作、表現力に加え、更に独創的で個性ある質の高い芸術作品を創作し、それを実際に音を出して再現、社会的に実践できる力をつける。					
教科書・テキスト等	評価方法	割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項
指導教員より指示	成績評価基準	平常点	20	通常レッスンへの積極的な取り組み。学内外の演奏会の鑑賞・出演。大学行事、オープンキャンパスライブコンサートへの積極的な作品発表等の取り組み		
		定期試験（前期学内演奏会・後期修了演奏会）	80	実技試験（公開試験、楽譜提出）		